

みどり森インタープリターの“四方山（よもやま）話”

さいたま緑の森博物館（通称：みどり森）のインタープリターによる四方山話のコーナー。
みどり森で起こった出来事や面白いこと、ビックリしたことなどを、各号スタッフが持ち回りでお届けします。

～はじめまして！みどり森の皆さん～

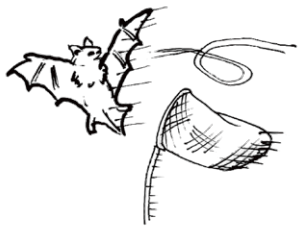
今号の担当：松山 龍太（りょうくん）

この4月から「みどり森」へ来ましたりょうくんです！ご挨拶遅くなりましたが、よろしくお願ひします。私は野生動物のなかでも小型哺乳類と言われる、ネズミやモグラ、コウモリを追いかけるのがとっても好きです！みどり森へ来る前は、東京都の西の果て“檜原都民の森”というところで勤務しており、そこではみどり森とまた違う、山の森ならではの体験をしていました。今回はその檜原村で体験した中でも、私の人となりが見えそうなオモシロ事件簿を2つ紹介します。

『事件簿ナンバー1 ～部屋で飛び交う黒い生きもの～』

ある日、「部屋で毎晩黒いモノが飛び回っているから捕まえてー！」という電話が。部屋の中で捕虫網を振り回し捕獲してみると、『山に住む』ヒナコウモリであることが分かりました。その後も何度か捕獲しに出向きました。

しかもこのヒナコウモリ、なんと『住宅地に囲まれた里山』であるみどり森でも度々目撃があるとのこと。これはぜひみどり森でも調べてみなければ…。



『事件簿ナンバー2 ～夜の家宅捜索～』

個人的に展示用の動物標本を作るために日ごろから村の人たちへ「野生動物の死体があったら連絡をください！」と言っていました。そんなある晩です。自宅の前で私の帰りを待っている人がいるではありませんか…。その人は村の小学校教諭。私が死体を集める変人だと思い、部屋を家宅捜索したいというのです。部屋へあがり、剥製や毛皮を1時間ほど確認し、変人ではないと分かってもらえたところで帰って行きました。これらの標本は、展示や研究で使うので、いつかみどり森へも持ってきますね。

オモシロ事件簿はここまで！みどり森のある狭山丘陵にはどんな生きものが生活しているのか、これまでの経験を活かしてどんどん調べてみたいと思っています。窓口でお会いした際はそんな話もしつつ皆さんの様々なみどり森体験談も、ぜひお聞かせください～！



さいたま緑の森博物館 利用案内



狭山丘陵の北西部に位置する、里山の自然そのものを展示とした野外博物館です。

HP <https://saitama-midorinomori.jp/>
※ QRコードから開けます

開館時間 9:00～17:00

休館日 月曜日（祝日の場合は開館し翌日が休館）
祝日の翌日、年末年始

所在地 埼玉県入間市宮寺889-1

電話・FAX 04-2934-4396

アクセス 公共交通機関をご利用の場合、
小手指駅南口より西武バス「宮寺西」行き
または「金子駅入口」行き乗車、約25分
「荻原バス停」下車、徒歩約10分
※駐車スペースに限りがありますの電車・バスをご利用ください。

緑の森博物館の 利用ルール

緑の森博物館では、以下の8つのルールを守って楽しく過ごしていただくようお願いしています。

- ① 植物や野鳥、小動物、昆虫等の生きものをむやみにとったり、傷つけたりしないでください。
- ② 他から持ち込んだ動植物（外来種）を放さないでください。
- ③ 原則として広場や観察路以外の場所に入らないでください。
- ④ 犬などのペットを放さないでください。
（フンの後始末もしっかりと行いましょう）

- ⑤ 車道以外の場所には、自転車やバイクで入らないでください。
- ⑥ パーベキューや花火など火を使わないでください。
- ⑦ ゴミは持ち帰りましょう。
- ⑧ ラジコンやドローンは使わないでください。

2025年10月発行

さいたま緑の森博物館 指定管理者：株式会社自然教育研究センター

さいたま緑の森博物館ニュースレターは、みどり森の様々な情報を年4回お届けいたします

さいたま緑の森博物館
ニュースレター
Saitama Midori-no-mori Nature Park

はくぶつかんだより
No. 59

30周年記念グッズ完成！

本年7月1日で30周年を迎えたさいたま緑の森博物館。それを記念してささやかなグッズを作ろうと思ひ立ち、スタッフでアイディアを出し合いました。その結果、みどり森の発生材（支障木として伐採した木や枯損木）を活用し、「みどり森で未来に遺していきたい生きもの」のイラストマグネットを作成することにしました。今回選んだ5種の生きものは、みどり森の雑木林や谷戸といった環境が良好に保たれていることの指標になる生物たちです。私たちが、狭山丘陵の雑木林とそれを取り巻く文化を守っていくことで、取り上げた生きものを始めとする多種多様な生物たちの命をつないでいきたいと考えています。



イベント情報（10～12月）

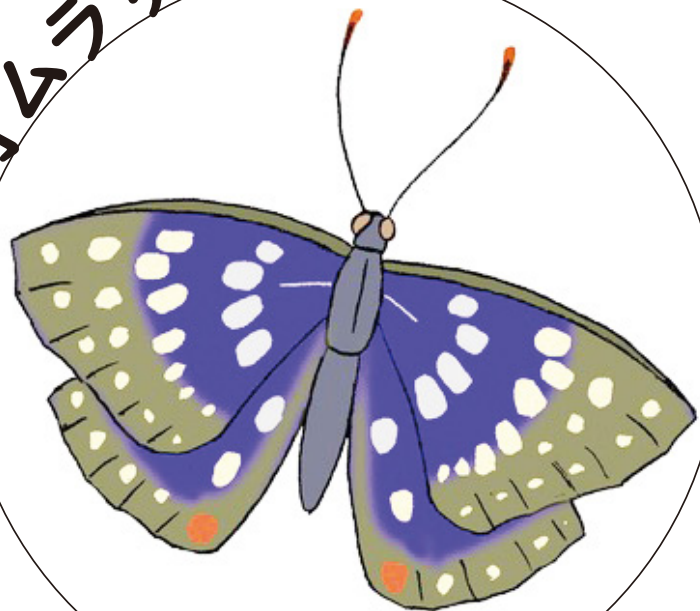
詳細は、当館ホームページまたはお電話にてお問合せください。

イベント名	日程	時間	概要	申込期間
みどり森ガイドウォーク	10/18(土) 11/14(金)	11:00～12:00	みどり森の季節ごとの自然の見どころをスタッフがご案内いたします。	当日受付
緑の森フェスタ2025	11/15(土) 11/16(日)	10:00～15:30	みどり森周辺の自然をテーマにした作品展、里山の自然とふれあうプログラムでみどり森を満喫できます。	当日受付 ※一部事前募集のプログラムもあります。
里山ようちえん【カエル組】	11/29(土)	10:00～13:30	子どもの成長と興味に合わせて、親子でみどり森の里山を楽しむ単日参加型の森のようちえんです。お弁当持参、おやつ付き。	10/29(水)～11/11(火) 正午まで
里山ようちえん【オタマ組】	12/3(水)	10:00～13:30		11/3(月祝)～11/18(火) 正午まで
みどり森ミニトーク	12/7(日)	10:00～10:20 13:00～13:20	季節による注目の自然や、里山の暮らしをお話します。（稲わらの利用の紹介と縄織機の実演を行います。）	当日受付
里山体験教室 「落ち葉かきと ごぼうびの焼き芋作り」	12/14(日) 12/20(土)	10:00～12:30	雑木林の管理作業のひとつ「落ち葉かき」を体験します。落ち葉を集めて堆肥箱をいっぱいにできたらごぼうびに焼き芋を焼いて食べよう！	11/14(金)～11/27(木) 正午まで
里山文化講座 「お正月のしめ縄飾り作り」	12/27(土)	10:00～12:00 13:30～15:30	地域の文化や習俗をテーマにした講座です。「しめ縄」を自分で作り、正月準備に込められた由来や願いについて楽しく学べます。	11/27(木)～12/10(水) 正午まで

【イベントのお申込みについて】 ※ 諸事情により中止・延期・定員等の変更の可能性があります。

- ・お申込みは、HP内「イベント情報」の専用フォームからお願いいたします。（お電話でも受付いたします。）
- ・事前申込のイベントは、原則実施の1か月前から受付開始です。

オオムラサキ



昆虫 チョウ目タテハチョウ科

オスの群青色が鮮やかな大型のチョウ。成虫はクヌギやコナラの樹液を好んで吸蜜し、幼虫はエノキの葉を食べます。また、幼虫はエノキの根元で落ち葉に貼り付いて冬を越します。

里山では、クヌギやコナラは良質な薪や炭になることから薪炭材として、エノキは枝葉を大きく広げる形から一里塚のシンボルや農作業の休憩場所として植えられてきた木です。

オオムラサキは、そんな里山に欠かせない木々と密接に結びついていることから選定しました。



哺乳類 ネズミ目ネズミ科

草地に生息する日本最小のネズミ。イネ科やカヤツリグサ科の植物の葉を裂いて球状の巣を作ります（みどり森では、オギやミヤマシラスゲをよく使っています）。食べ物は昆虫や雑草の種などです。

みどり森は「森」という名称ですが、谷戸と呼ばれる湿地に広がる草むらも特徴的な環境で、カヤネズミはこのような草むらがあってこそ住める生物です。

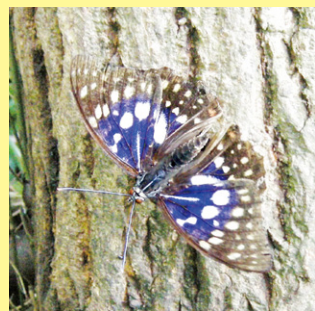
こうした草むらは人が手を入れないと、すぐ乾燥した草地や雑木林に置き換わってしまいます。そこで、この景観を保つことで、カヤネズミにずっと住んでいてもらいたいという思いで選びました。



カヤネズミ



30周年記念グッズに登場する 未来に遺していきたい生きものたち



植物 オモダカ目サトイモ科

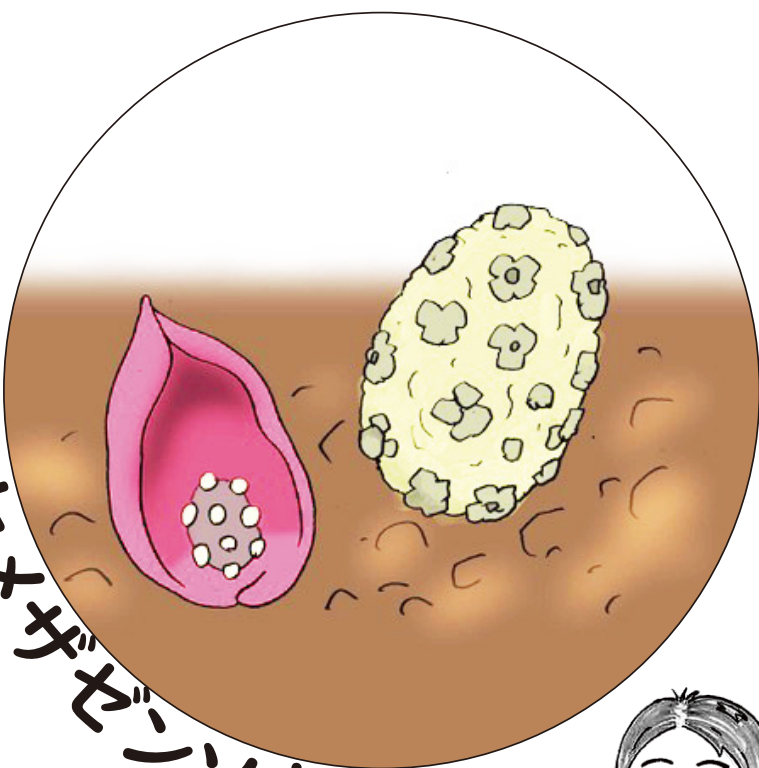
花序を包む高さ4～7cmくらいの赤いフード（仏炎包）が特徴的なザゼンソウの仲間。開花期は6月ごろ。山地の湿った林縁や湿地を好み、北海道から中国地方まで分布しますが、太平洋側では少ないです。

ヒメザゼンソウは埼玉県レッドリストで「ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い」とされる絶滅危惧ⅠA類（CR）に指定されている希少な植物です。しかし、みどり森の谷戸の斜面はとても適した環境だったのか現在5,000株程が群生しています。

県内の自生地ははっきりしておらず、まとまった株数が見られるみどり森は大変貴重な場所です。環境の整備を続け、いつまでも見られるようにしたい植物です。



ヒメザゼンソウ



両生類 無尾目アカガエル科

主に平地の草地や湿地に生息しているニホンアカガエルと、山地や森林に生息しているヤマアカガエル。同じアカガエル科で見た目はよく似ています。見分け方は、目の後ろに伸びる線がまっすぐなのがニホンアカガエル（左）、曲がっているのがヤマアカガエル（右）。他にも、あごの下の模様や鳴き声に違いがあります。

みどり森では、この2種類のカエルが同じ地域で暮らしています。平地と山、草地と森林、陸地と水辺、自然と人の営み、そうした様々な要素が混じり合う場所であることのシンボルとして、2種のカエルを今回グッズに取り上げました。



ニホンアカガエル・ヤマアカガエル

